

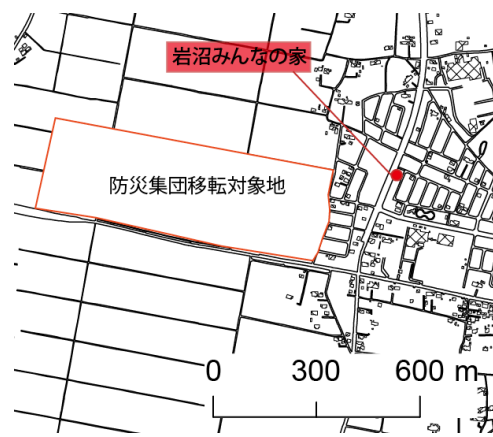
東北の文化的景観・居久根（いぐね）を岩沼から再生します。

「新しい居久根」と「記憶の庭」をつくります。

～参加しましょう！～

場所： 岩沼市押分字南谷地23-1
みんなの家

日時： 「モデル居久根づくり」
2013年6月29日午後～
6月30日
「記憶の庭」づくり
2013年7月7日 終日



震災前の居久根（いぐね）と現在の状況



まちづくりワークショップで、居久根の意味が見直されました。



未来の居久根の苗を育てています。（玉浦）

「記憶の庭」は、失われた家の思い出（タイル破片、庭石、瓦の破片など）を集め、皆さんが集まり、語り合う「みんなの家」の庭の一部としてつくります。皆さんの思い出の瓦礫をもってきて、参加しましょう。瓦礫をもってきていただくのは、いつでも歓迎。時間のない方は、そっと、工事現場においておいていただいてもかまいません。

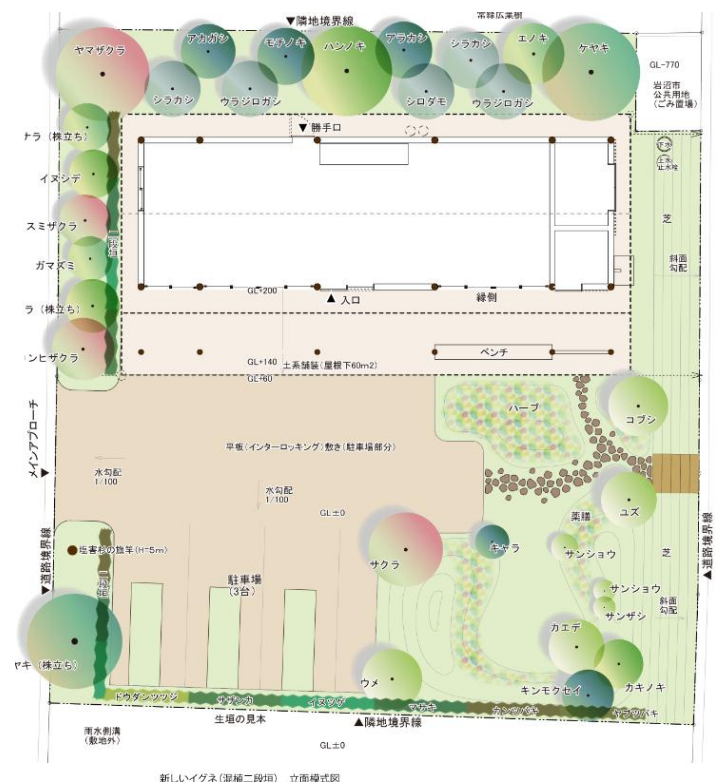
居久根（いぐね）は、東北地方特有の屋敷林で、北西の北風、海風を防ぎ、建築用材を提供するなど、暮らしとともにあり、伝統的な農村景観をつくりだしてきました。今回の津波では、居久根につかまり助かった方、瓦礫の流入が阻止され住宅が破壊されなかった家など、大きな役割を果たしました。しかしながら、その後、杉が塩害に弱いことから、居久根は次々に枯れていきました。

新しい防災集団移転地には、周囲に居久根を創り出していきます。新しい居久根の誕生です。どんな居久根にしたら、よいのでしょうか？

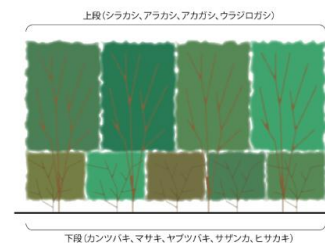
- ・塩害に強い居久根
- ・しっかりと北風を防いでくれる居久根
- ・狭い場所でも、美しい景観を提供してくれる居久根

まず、最初の居久根をつくり、改良し、新しいまちの居久根をつくりだして、行きましょう。

協力：(株)インフォコム、伊東豊雄建築設計事務所、RISTEX 社会技術研究センター、ニッセイ緑の財団、中央大学理工学部人間総合理工学科 環境デザイン研究室、埼玉県川口市赤山・柴道本店、宮城学院同窓会



みんなの家の居久根と記憶の庭



新しい居久根 二段垣